

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901225		
法人名	有限会社 ほほえみゆたか		
事業所名	グループホーム すてきだね		
所在地	北海道旭川市東光15条5丁目2番12号 (電話) 0166-32-9123		
評価機関名	タンジント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年3月5日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】(平成20年1月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年4月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	23人	常勤	14人, 非常勤 9人, 常勤換算 18.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨コンクリート 造り		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,600円	その他の経費(月額)	12,400~18,400円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200			

(4) 利用者の概要(1月29日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	12名	要介護4	1名		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 84.5歳	最低	75歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山下整形外科クリニック、おうみや内科クリニック、ツインハーブ歯科 旭川リハビリテーション病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

居宅介護支援センター、デイサービスの施設が併設された複合福祉施設の中のグループホームです。近隣住民や地域の人達、福祉専門学校生やよさこいのボランティアなどが参加して「夏祭り」が開催され地域との交流が行われています。また、「すてきだね通信」を毎月発行し、その中に「認知症の一口メモ」を掲載して継続的に認知症に対する理解や啓発に取り組まれていると共に家族も年2回開催されて、利用者家族が多数参加し、日常の出来事や悩みや不安など気軽に話せる雰囲気作りや職員との交流で忌憚のない意見交換も行われています。介護記録の様式も簡潔に漏れなく記載できるように様式も絶えず改善して、ケアサービスの質の向上に活かされています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、本人の過去の大事な出来事や生活歴を把握する取り組みについて挙げられていましたが、アセスメントに基づき、毎月開催されるミーティングやモニタリング、3ヵ月に一度介護計画の評価に職員の意見が反映され生活歴と共に情報の共有がされています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、評価を通じて具体的な改善に取り組んでいます。また、毎月発行される「すてきだね通信」では、認知症に対する理解や啓発、職員の紹介、外部評価の結果について家族に報告されています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在3回実施されています。その議題については運営推進会議開催の意義について 北海道新聞記事について ターミナルケアについて 意見交換や要望について 誕生会の委員参加について
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年2回開催される家族会では、参加家族が多く家庭的雰囲気の中で職員との交流や意見交換が行われています。また、毎月発行される「すてきだね通信」と個々の家族に発行される「近況報告」で生活の様子や健康状態などが報告されています。また、苦情等の意見箱を玄関入り口に設置して意見や苦情を表せる機会を設けて運営に反映しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「夏祭り」を開催して、近隣住民や地域の人達、福祉専門学校生やよさこいのボランティアなどが参加して地域との交流の取り組みが行われていたり、散歩や近隣住民より野菜を届けて戴くなど日常生活を通じて連携されています。また、「すてきだね通信」を町内会に回覧して日常生活を通じて認知症に対する広報や啓発に取り組む計画もされています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして、独自の理念をつくりあげ共用空間に掲示して職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を毎月開催されるミーティングを通じて共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「夏祭り」を開催して、近隣住民や地域の人達、福祉専門学校生やよさこいのボランティアなどが参加して地域との交流の取り組みが行われていたり、散歩や近隣住民より野菜を届けて戴くなど日常生活を通じて連携されている。		今後は、「すてきだね通信」を町内会に回覧して日常生活を通じて認知症に対する広報や啓発に取り組む計画もされています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており、評価を通じて具体的な改善に取り組んでいます。また、毎月発行される「すてきだね通信」では、認知症に対する理解や啓発、外部評価の結果について家族に報告されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在3回開催されている。メンバーは利用者、家族、町内会役員、他施設の介護支援専門員、包括支援センター、法人代表者、法人事務長、管理者及び職員で構成され具体的に活動に取り組んでいる。</p>		<p>今後は、運営推進会議で火災避難訓練や救急救命訓練の実際活動を体験して戴いて、そこでの取り組みについて意見を戴き運営に反映していく計画が検討されています。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者、職員は、市担当者との連携の重要性については十分理解し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後は、市や包括支援センターの協力を得ながら、近隣住民も参加した研修会を企画して、ともにケアサービスの質の向上に取り組まれることが計画されています。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行される「すてきだね通信」と個々の家族に発行される「近況報告」で生活の様子や健康状態などが報告されています。また、金銭管理についても毎月報告されている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回開催される家族会では、参加家族が多く家庭的雰囲気の中で職員との交流や意見交換が行われています。また、苦情等の意見箱を玄関入り口に設置して意見や苦情を表せる機会を設けて運営に反映しています。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>毎月発行される「すてきだね通信」で職員の顔写真付きで紹介記事が掲載されています。また、管理者は、職員の離職などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをして離職率も安定している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会への研修参加や包括支援センターでの定期研修、保健所主催の研修会など積極的に参加している。		今後は、職員の段階に応じた内部研修の充実を期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や他施設との交流が行われ、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		今後は、他施設との相互訪問や交流で情報交換と情報の共有をさらに深める取り組みを期待します。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、入居前には本人、家族の来訪の回数を増やし、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族会での意見交換や来訪時に利用者の過去の大事な出来事や生活歴を話し合い、情報を共有するなど本人と共に支えあう関係構築に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に取り組み、畑作業や折り紙、手芸、工作、洗濯物たたみ、調理などの趣味への支援や入浴や食の嗜好の把握、ドライブでの外出など本人の希望や意向を尊重した取り組みがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画は作成されており、利用者、家族の希望や医師からの助言やモニタリングやカンファレンスで職員からの意見を取り入れ具体的になっている。		特筆すべき点として、介護記録の様式が簡潔に漏れなく記載できるように様式も絶えず改善して、ケアサービスの質の向上に活かされています。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヵ月に一度の評価や介護支援専門員が中心となってモニタリング、カンファレンスを随時実施し、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、主治医への通院、歯科医師への通院の支援や本人の希望や意向に沿って散歩や買物、ドライブなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る協力医療機関の看護師と常に連携をとったり、主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階で本人・家族の意志が確認され、職員間で共有されている。また、現在、指針を作成中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応、記録の扱いをしている。また、身体拘束委員会で職員の共通認識を持つ取り組みを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や思いを把握して、散歩や買物、ドライブなど本人の希望に沿った生活を送れるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、料理や盛り付け、配膳の準備、食器洗い等職員と利用者が一緒になって行っている。また、職員も利用者と一緒に和やかに食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めずに週2回を目安にタイミングや希望に応じてゆっくりと入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴が把握され、洗濯物たたみ、料理の準備や後片付け、散歩や買物、ドライブなど気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、花見や紅葉見物、公園散歩、初詣やドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。また、馴染みの美容院への送迎も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関は、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員がさりげなく見守り安全面で配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>資格を持った防火管理者が配置され、火災避難訓練も年2回、救急救命訓練も実施され緊急時に速やかに対応が出来るようになっている。</p>		<p>今後は、日ごろより地域の人々の協力を得られるように火災避難訓練などに地域の人々が参加できるような取り組みが計画がされています。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>具体的な食事や水分の摂取量が記録され、職員に栄養士が在籍し、栄養バランスや摂取カロリーについて指導・助言が得られている。また、塩分摂取に注意が払われている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が気になる音の大きさや臭い、光の強さは感じられない。また、居室の入り口には、職員と利用者の手作りの表札が飾られていたり、広いリビングには椅子やソファが配置され自由に過ごせる空間が確保されていたり、大正琴のボランティアの演奏の場ともなっている。また、畑では茄子やきゅうりなどの野菜や種から育てた花が育てられ利用者の楽しみごととなっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、家族の写真や折り紙などの作品、観葉植物が飾られたり、テレビやタンスなどの使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。